

【2021年4月／2021年5月】 ポプラ社一般書単行本 刊行予定

※配本日・タイトル・予価等は変更の可能性があります。あらかじめ御了承ください。

4月

ジャンル	配本日	ISBN 978-4-591-	書名	著者	予価	判型	頁数	著者紹介	内容紹介
文芸	4月12日	170007	セゾンサンカンシオン	前川ほまれ	1,900	四六判	368	1986年、宮城県生まれ。看護師として働かたわら、小説を書き始める。2017年、『跡を消す 特殊清掃専門会社デッドモーニング』で、第7回ポプラ社小説新人賞を受賞し、翌年デビュー。第二作『シークレット・ペイン 夜去医療刑務所・南病舎』が、第22回大藪春彦賞の候補となる。	アルコール依存症の母親をもつ柳岡千明は、退院後の母親が入所する施設「セゾン・サンカンシオン」へ見学に行く。そこは、さまざまな依存症に苦しむ女性たちが共同生活を行いながら、回復に向けて歩いていくための場所だった。迷惑を掛けられてきた母親に嫌悪感を抱く千明だが、施設で同じくアルコール依存症を患っているパピコとの出会いから、母親との関係を見つめなおしていく――。人間の孤独と再生にやさしく寄り添う感動作！
文芸	4月12日	170069	ジュリーの世界	増山実	1,700	四六判	328	1958年大阪府生まれ志社大学法学部卒業。『勇者たちへの伝言』でデビュー。同作は2016年「第4回大阪ほんま本大賞」を受賞。他の著書に『空の走者たち』、『風の僕らに海の歌を』、『波の上のキネマ』、『甘夏とオリオン』がある。	かつて京都に「河原町のジュリー」と呼ばれる有名なホームレスがいた。無数の視線に晒されても目抜き通りを悠然と歩き、商店街の一等地で眠る男。出会った人たちはそのたび新たな物語をまどわせ彼は街の伝説と化していく――。ガラス玉のような目で空を見つめる彼はいったい何者なのか。なぜこの街にやってきたのか。彼と人生を交錯させた人々はやがてその「真相」を知る。人間の尊厳と人が物語ることの意味を問う感動作。
文芸	4月12日	170021	蝶の眠る場所	水野梓	1,800	四六判	400	1974年生まれ。日本テレビ報道局勤務。大学時代に米国の大学に留学し、ジャーナリズム学部を卒業。報道局で警視庁や皇室などを取材、原子力・社会部デスクを経て、中国総局特派員、国際部デスク。帰国後はNNNドキュメントのディレクター・プロデューサー、news every. のデスク、読売新聞で医療部・社会保障部・教育部の編集委員を務める。四月より BS日テレ深層NEWSキャスターを務める。	「私は事件には一切関係していません。真犯人は別にいます」そう言い残して絞首台を登っていった男。時は巡り、小学生が学校の屋上から落ちて亡くなるという事故が起きる。いじめによる自殺の線で取材を進めていたテレビ局社会部の女性記者は、少年の母親が、冤罪が疑われる事件の加害者として極刑となった男の娘だと知る。果たして二つの事件と事故に関連はあるのか!? 警察権力との暗闘の果てに、女性記者が辿りついた真実は。
ライフスタイル・エッセイ	4月12日	170014	「どっちでもいい」をやめてみる	引田かおり	1,600	A5判	160	夫の引田ターセンと共に、2003年より東京・吉祥寺にある「ギャラリー feve」とパン屋「ダンディゾン」を営む。さまざまなジャンルの作り手と交流を深め、新しい魅力を引き出し、世に提案していくことを大きな喜びとしている。	「どっちでもいい」をやめて、人まかせにせず、自分の「好き」を優先させると、人生を気持ちよく歩けます。本書では、正直な気持ちを表現できるようになれるヒントを、文章と写真で紹介。引田かおりさんが選び抜いた器や洋服、長年集めたかご、ガラス、暮らしの工夫も必見です。

5月

ジャンル	配本日	ISBN 978-4-591-	書名	著者	予価	判型	頁数	著者紹介	内容紹介
文芸	5月6日	170083	死にたがりの君に贈る物語	綾崎隼	1,700	四六判	384	1981年新潟県生まれ。2009年、第16回電撃小説大賞＜選考委員奨励賞＞を受賞し、『蒼空時雨』（メディアワークス文庫）でデビュー。受賞作を含む「花鳥風月」シリーズ、「君と時計」シリーズ（講談社）、『盤上に君はもういない』（KADOKAWA）など著作多数。本作は著者にとって40冊目の刊行となる。	全国に熱狂的なファンを持つ、謎に包まれた小説家・ミマサカリオリの訃報が、人気シリーズの完結目前に告げられた。奇しくも作品は批判に晒され、さらに作家に心酔していた高校生・純恋が後追い自殺を図る。未遂に終わったが「完結編が読めないなら生きる意味がない」と語る純恋。やがて山中の廃校に純恋を含むミマサカファン、七人の男女が集まった。小説をなぞる生活をし、その結末を探ろうとしたのだが、ある事件が起きて――。
文芸	5月17日	170090	忘れられたその場所で、	倉数茂	1,700	四六判	304	1969年生まれ。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。学術博士。専門は日本近代文学。2005年より5年間中国で日本文学を教える。2010年、『揚羽の夏』にて、選考委員の満場一致で第1回ピュアフル小説賞「大賞」を受賞。著書に、『魔術師たちの秋』『名もなき王国』『あがない』がある。	人ならざるものを見てしまう高校生の美和は、雪の中道に迷い、見知らぬ街に迷い込む。その一角に、割られた窓ガラス越しにじっとこちらを見ている男がいた。男は死体だった。一方刑事の浩明は、死体発見の報を受け、現場に駆け付ける。被害者の斗南という男性は、数日間体の自由を奪われ、食事も与えられないという残酷な方法で殺されていた。浩明は同僚の絵美とともに斗南の過去を探るのだが、予想外の事実が浮かび上がり――。

〒102-8519 東京都千代田区麹町4-2-6 住友不動産麹町ファーストビル8・9F

TEL : 03-5877-8110 / フリーダイヤルFAX : 0120-53-6188